



# 渡航外来開設にともなう ワクチンの導入と安全性の検討について



2023.10.1

# ワクチン接種除外対象者について



次に該当する方は除外します。

- ・渡航外来で取り扱うワクチン・内服薬の禁忌に該当する場合。
- ・被接種者が次のいずれかに該当すると認められる場合は、除外する。
  1. 明らかな発熱を呈している者
  2. 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
  3. ワクチンの成分によってアナフィラキシーを呈したことがある明らかな者
  4. 上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある者

# 1. 予約申し込みの流れ(完全予約制)



1. 渡航予定者から徳島大学病院予約センターに申し込み(FAX又はメール)  
※当サイトより専用申込票をダウンロードしてお送りください



2. 渡航外来担当医師から渡航予定申込み者へ電話またはメール連絡  
・渡航先の確認、接種予定ワクチンの決定、予約日の確認



3. 渡航外来は完全予約制の為、予約受付票の持参は必ずしも必要ではありません。  
必要な方は、渡航外来専用申込票 右上の返信先にFAX番号を記入して下さい。当院予約センターより返信希望者へ予約票をFAX送信します。  
※返信先に未記入の場合は返信できません。

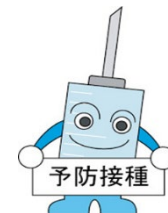
# 海外でかかりやすい感染症



| 感染経路           | 生活上の注意  | 感染症     | 主な流行地域            | 主な症状        | 予防接種有無 |
|----------------|---|---------|-------------------|-------------|--------|
| 飲食物から感染        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミネラルウォーターを飲む</li> <li>・加熱した料理を食べる</li> </ul>              | 旅行者下痢症  | 発展途上国             | 下痢、嘔吐       |        |
|                |   | A型肝炎    | 発展途上国             | 発熱、黄疸、全身倦怠感 | ○      |
|                |   | ポリオ     | 南アジア、アフリカ         | 発熱、手足の麻痺    | ○      |
|                |   | 腸チフス    | 発展途上国<br>(特に南アジア) | 発熱、腹痛       | ○*     |
| 患者の飛沫<br>などで感染 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗いやうがい</li> <li>・人ごみを避ける</li> </ul>                      | インフルエンザ | 全世界               | 発熱、咽頭痛      | ○      |
|                |   | 結核      | 発展途上国             | 咳・たん、体重減少   | ○      |
|                |   | 流行性髄膜炎  | 西アフリカなど           | 発熱、意識障害、頭痛  | ○      |
| 蚊の媒介           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚を露出しない</li> <li>・昆虫忌避剤を塗る</li> <li>・殺虫剤を散布する</li> </ul> | マラリア    | 発展途上国<br>(熱帯・亜熱帯) | 発熱、悪寒       |        |
|                |   | デング熱    | 東南アジア、中南米         | 発熱、発疹       |        |
|                |   | 日本脳炎    | アジア               | 発熱、意識障害     | ○      |
|                |   | 黄熱      | 熱帯アフリカ、南米         | 発熱、黄疸       | ○      |
| 性行為で感染         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・行きずりの性行為を控える</li> <li>・医療行為にも注意</li> </ul>                | B型肝炎    | アジア、アフリカ、南米       | 発熱、黄疸、全身倦怠感 | ○      |
|                |   | 梅毒      | 発展途上国             | 性器潰瘍、発疹     |        |
|                |   | HIV感染症  | 全世界<br>(とくに発展途上国) | 発熱、リンパ節腫脹   |        |
| 動物から感染         | 動物に近寄らない  | 狂犬病     | 全世界<br>(とくに発展途上国) | 恐水発作、けいれん   | ○      |
| 傷口から感染         | 傷口を消毒する   | 破傷風     | 全世界               | 口が開かない、けいれん | ○      |

\* 腸チフスワクチンは輸入ワクチンのみ取り扱っております。

# ワクチンの接種回数と有効期間



| ワクチン名  | 接種回数 | 接種日             | 有効期間   |
|--------|------|-----------------|--------|
| A型肝炎   | 3回   | 0日、2～4週後、半年～1年後 | 5～10年間 |
| B型肝炎   | 3回   | 0日、4週後、半年～1年後   | 10年以上  |
| 破傷風*1  | 3回   | 0日、4週後、半年～1年後   | 10年間   |
| 狂犬病*2  | 3回   | 0日、1週後、3～4週後    | 以下*2参照 |
| 黄熱     | 1回   | 当院では取り扱っておりません  | 10年間   |
| 日本脳炎*3 | 3回   | 0日、4週後、半年～1年後   | 4年間    |
| ポリオ*4  | 3回   | 0日、3～8週後、半年～1年後 | 10年以上  |

\*1 破傷風:1968年以降に生まれた方は、小児期に3種混合として接種を受けていることが多く、その場合は1回の追加接種のみを行います

\*2 狂犬病:有効期間は、渡航先での活動内容によって違います。

\*3 及び\*4

日本脳炎 ポリオ:小児期に基礎接種を受けている場合、通常は1回の追加接種のみを行います

## • 狂犬病

狂犬病は、発病すればほぼ100%が死亡する病気である。海外では、オセアニアなど一部を除きイヌだけでなくキツネ、アライグマ、コウモリなどの動物に咬まれることによって感染する危険性が高く、長期滞在、研究者など動物と直接接触し感染の機会の多い場合や、奥地・秘境などへの渡航ですぐに医療機関にかかることができない者を対象に接種するワクチン。狂犬病ワクチンラビピュールは1週間隔で2回接種し、さらに3-4週後に3回目を接種する。

### Rabipur接種禁忌

過去にRabipur接種でアレルギーが明らかな者、重得な鶏の卵にアレルギーがある者、ゼラチン、アンホテリシンB、クロルテトラサイクリン、ネオマイシンのアレルギーがある者

### <一般的なRabipurの副反応>

#### ●マイルドであり数日で消失する

- 接種部位の痛み発赤、腫脹
- 頭痛、発熱、倦怠感、全身の気分不良、インフルエンザ症状、悪寒戦慄、発汗多量
- 腋窩と腺の腫脹
- 筋肉痛、筋力低下、関節痛
- 吐き気、嘔吐、胃痙攣と痛み、発疹等

### <気づいた時点で受診勧めるRabipurの副反応>

#### ●稀である

- 頻脈や不整脈または紅潮
- 視野、色覚異常
- 手足のしびれ、痛み
- めまいや頭部ふらふら感
- 動きが制限される程度の筋力低下
- 動作不能、または体の様々な部分の感覚消失 等

### <重篤なRabipurの副反応>

#### ●非常に稀である

- アレルギー反応(かゆみ、発疹、腫脹)顔面、唇、舌、他の様々な部位の腫脹
- 呼吸困難
- 幻覚、意識障害、全身性麻痺、頭痛と高熱
- 行動、会話、目の動きの異常と光過敏性

稀な副作用では、アナフィラキシーも含め発生いた場合は緊急の処置を必要とすることもある。このリストに全ての副反応は記載できていない可能性もあり接種後に気になる症状出現時は担当医師へ申し出をする必要がある。

## 髄膜炎菌

- 1～14日の潜伏期間の後に、頭痛、発熱と、首を動かしにくくなる硬直が起こる。髄膜だけでなく、全身に細菌感染が及んでいるので、急激に症状が悪化し、精神状態が変化することがある。治療しなければ例外なく死に至る。ワクチンが有効、流行地域へ渡航する場合にはワクチン接種が勧められる。
- 国産ワクチンであるメンクアッドフィ(A,C,Y,Wの4価対応)は2歳以上で使用可。基本は1回の接種。
- 輸入ワクチンであるMenveo (A,C,Y,Wの4価対応)は2か月児から使用可。回数は年齢によるが、2歳以上は1回。

## 接種禁忌

高熱、急性疾患、過去の接種で危篤な副反応があった者

ほとんどが軽微な副反応だが稀に重篤な副反応が発生する可能性もある。ほとんどが接種局所の反応で48時間以内に自然軽快するが、医療処置が必要な場合はすみやかに受診する必要がある。

## <一般的な副反応>

- 局所の疼痛、硬結、熱感、腫脹、焼けるような痛み、刺すような痛み、癬痕
- 腺、リンパ節の赤みやかゆみのある腫脹、腋窩の腫脹
- 皮膚の紅潮と発赤
- 頭痛、めまい、疲れ感、虚弱、倦怠感、気分不良

## <非常に稀であるが医療機関受診が必要な副反応>

- 四肢、顔面、眼、鼻粘膜、口腔内の腫脹
- 呼吸困難や誤下困難
- 重篤な皮膚反応で四肢のかゆみを伴う皮疹、硬結、特に耳周囲の発赤等
- 急激で重篤な倦怠感や虚弱
- 38度を超える発熱
- 神経学的異常 等

稀な副作用では、アナフィラキシーも含め発生いた場合は緊急の処置を必要とすることもある。このリストに全ての副反応は記載できていない可能性もあり接種後に気になる症状出現時は担当医師へ申し出をする必要がある。

## ・ マラリア

マラリア原虫をもった蚊(ハマダラカ属)に刺されることで感染する病気。世界中の熱帯・亜熱帯地域で流行しており、2013年12月に公表された統計によると、1年間に約2億700万人が感染し、推計62万7,000人が死亡している。日本でも100人近くが輸入感染で発症している。1週間から4週間ほどの潜伏期間をおいて、発熱、寒気、頭痛、嘔吐、関節痛、筋肉痛などの症状が出る。マラリアには4種類(熱帯熱マラリア、三日熱マラリア、四日熱マラリア、卵形マラリア)あり、その中でも、熱帯熱マラリアは発症から24時間以内に治療しないと重症化し、しばしば死に至る。脳症、腎症、肺水腫、出血傾向、重症貧血など、さまざまな合併症がみられる。流行地域への渡航予定の場合は予防薬マラロン錠(1日1回内服)またはメファキン(1週間に1回内服)の使用を検討する。輸入薬剤を用いる予定はない。

## ・ 高山病

高山病には山酔い、高所肺浮腫、高所脳浮腫の3種類あり、高山病の90%以上はこの山酔いで、命に別状はなく、放置すると高所肺浮腫、さらには高所脳浮腫となり、死に至ることもあるので、充分注意が必要。

Acetazolamideアセタゾラミド(商品名 Diamoxダイアモックス)を高地に上がる前に飲んでおけば山酔いを防止することが可能。また症状が現れてからでも服用すれば早急に改善される。但し、本剤を服用していても急速に高度を上げると高山病に陥ることもあり十分注意が必要。

投与量は1回125mgを1日2回高地に行く前日から服用する。ダイアモックスを服用していても高山病を発症してしまった場合は、倍量にして1回250mgを1日2回服用する。輸入薬剤を用いる予定はない。

本薬剤は高山病予防・治療とともに保険適応外であり、十分にインフォームド・コンセントで了解を得たうえで服用する。重大な副作用が出現した際には、医薬品副作用被害救済制度に申請し個別判断の対象となる。